

縄文時代中期

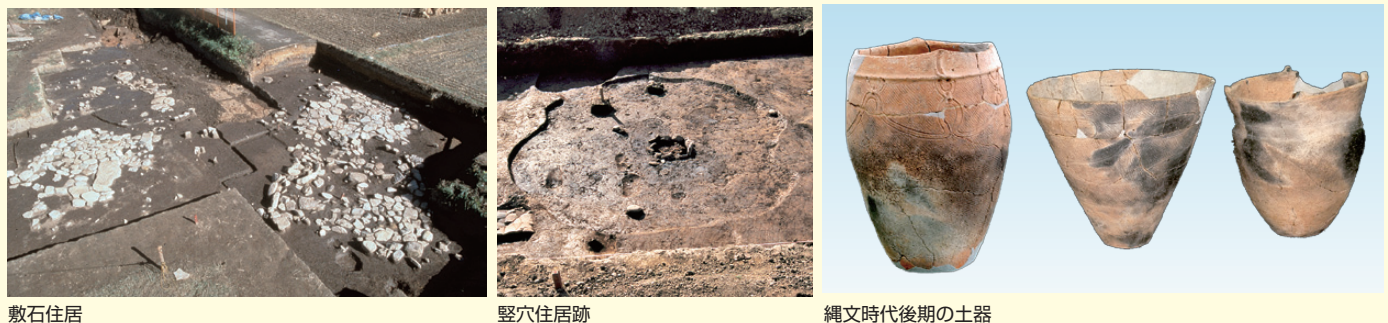
宮畑遺跡では、縄文時代中期の半ばすぎ頃には集落が作られていました。この時期の住居跡の特徴は複式炉とよばれる土器埋設部と石組部を組み合わせた大型の炉を持っている点です。集落の中で半数近い住居が故意に焼かれていましたが、これほど多くの家が焼かれた集落は全国でも例がなく、宮畑遺跡の大きな謎です。



焼けた土がたまっている故意に焼かれた家 焼けた土を取り除いた様子 複式炉 複式炉に埋められていた土器

縄文時代後期

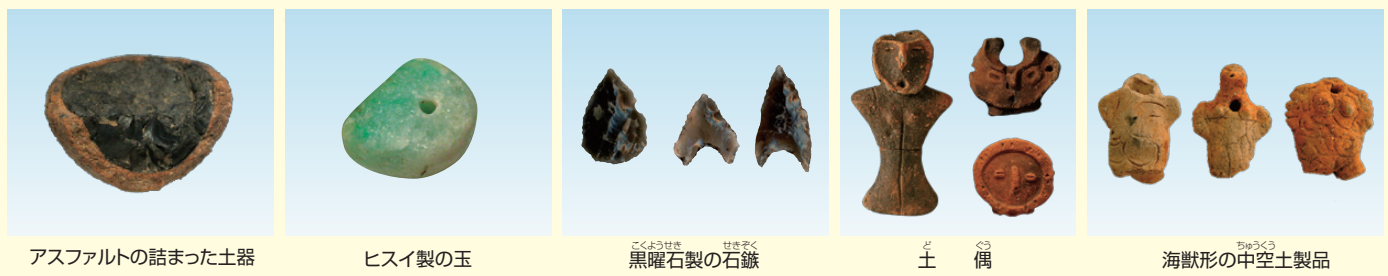
縄文時代中期の集落の次には、竪穴住居と関東地方で流行した敷石住居が使われた集落が作られます。敷石住居は縄文時代後期の半ばになくなり、竪穴住居だけの集落に変わります。縄文時代後期には集落の南側にある湿地が大規模に埋め立てられ、集落西の傾斜地には捨て場（送りの場）ができます（見開き⑧参照）。



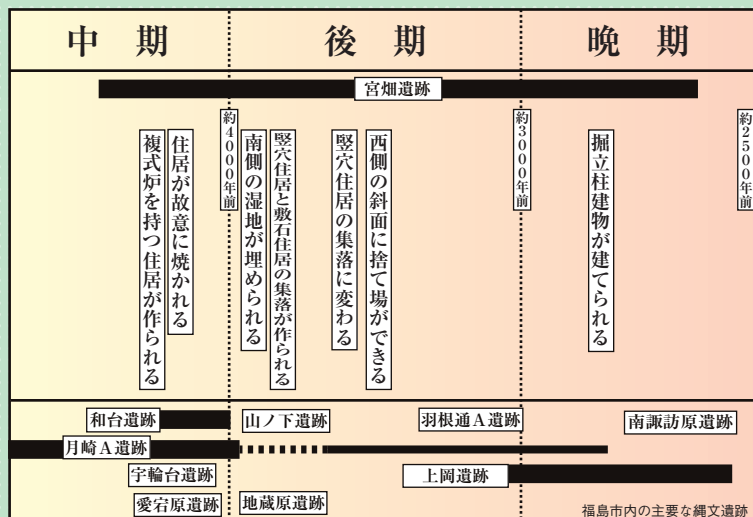
敷石住居 竪穴住居跡 縄文時代後期の土器

遺物

宮畑遺跡からは日常的な縄文土器や石器のほか、他の地域との交流を示すものや土偶などの縄文時代の精神文化をあらわす遺物が見つかっています。アスファルトは新潟～秋田の日本海沿岸部から、ヒスイは新潟県糸魚川市周辺からそれぞれ運ばれてきたものです。海獣形の土製品3点の用途は不明ですが、まつりに用いられたものと考えられます。



アスファルトの詰まった土器 ヒスイ製の玉 黒曜石製の石鏃 土偶 海獣形の中空土製品



史跡 宮畑遺跡

宮畑遺跡史跡公園

平成27年開園

じょーもぴあ 宮畑

福島市制施行100周年記念事業「史跡公園愛称募集」(平成19年)により、応募総数909点の中から宮畑遺跡史跡公園の愛称が「じょーもぴあ宮畑」に決定しました。

※じょーもぴあは「縄文時代を身近に感じられるユートピアのような場」の意味です

宮畑遺跡は、縄文時代中期・後期・晩期の、約2000年間にわたる縄文時代の人々の生活を伝える南東北を代表する縄文時代の遺跡として、平成15年8月27日に文部科学省より史跡に指定されました。

史跡公園「じょーもぴあ宮畑」は、宮畑の地に暮らした縄文人の生活の様子を伝え、縄文をテーマとした体験・学習ができる施設、そして、芝生の広場、遊具の広場、炊事棟などを備えた憩いの場として活用できる施設です。

縄文時代晩期

縄文時代晩期には、広場を囲んで掘立柱建物が環状に並び、その外側は埋設された子どもの墓域となっていました。

掘立柱建物 見開き①

縄文時代晩期の掘立柱建物を、柱や屋根材にはクリを使用し、屋根は茅葺きで復元しています。まつりに関連する施設として復元しているため、壁のない建物となっています。



1号掘立柱建物 ①-a 高さ:7.33m 柱直径:68~90cm 1号掘立柱建物の発掘状況 人が入っている穴が柱をたてたところ



2号掘立柱建物 ①-b 高さ:7.03m 柱直径:60cm 5号掘立柱建物 ①-c 高さ:4.69m 柱直径:32~35cm 10号掘立柱建物 ①-d 高さ:4.42m 柱直径:31~36cm

埋設 見開き②

埋設は亡くなった子供を縄文土器におさめ、地中に埋設したもので、縄文時代晩期には、掘立柱建物群の外側に多く分布しています。掘立柱建物の近くで発見された埋設をレプリカで復元展示します。



埋設復元展示(発見の様子) 埋設復元展示(発見・埋設の様子)

平成25年3月
福島市教育委員会

じょーもぴあ宮畑

整備内容

宮畑遺跡では、集落の周囲にはクリ林、トチノキ林、オニグルミ林があり、木の実がなるこれらの木を管理していたことが明らかになっています。

整備では、発見された遺構を視覚的に伝えるために、**竪穴住居**や**掘立柱建物**・**埋甕**・**敷石住居**の復元展示や**捨て場**（**送りの場**）の露出展示を行っています。

発掘調査成果にもとづいた樹木の植栽や川を復元し、掘立柱建物などとともに縄文時代の景観を復元しています。

このほか、史跡指定外の区域には、**駐車場**、**遊具**や**炊事棟**などを備えた広場とともに、平成26年度までに**体験学習施設**を建設する予定です。

環境復元・多目的活用地区(9)

史跡指定地内では、縄文時代に存在した川とトチノキ、オニグルミを中心とした縄文の林の一部を表現しています。

史跡指定外の区域は、駐車場の他、芝生広場と子供用遊具のほか、健康遊具も備えた遊具の広場を整備しています。広場の北側には**休憩棟**、**炊事棟**と**直火広場**があり、芋煮会などにも利用できる空間となっています。



縄文の川



子供用遊具



健康遊具



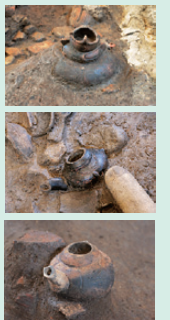
炊事棟

露出展示(8)

遺跡の西側の段丘斜面に、注口土器や壺などを含む多量の土器が廃棄された**捨て場**（**送りの場**）があります。発掘調査で発見された様子をそのまま実物で露出展示しています。



発掘調査時の様子(左)と見つかった土器(右)



露出展示棟内部(左の土器廃棄区域を実物展示)

縄文の森

園路の周囲には、発掘調査での花粉分析の結果をもとに樹木を植栽し、集落周囲の自然景観を復元しています。

掘立柱建物群の周囲は、クリ林・トチノキ林とし、その他の地点には、コナラ、シラカシなどのドングリがなる木や、ケヤキ、イタヤカエド、イヌシデ、ハンノキ、ヤマザクラ、イヌガヤなど30種以上の高木を植栽しています。



園路沿いの縄文の森



園名サイン

縄文時代では国内最大級の太さである1号掘立柱建物の直径90cmの柱にちなみ、直径90cmの丸太で制作しました。平成19年の福島市制施行100周年記念事業で設置しました。



宮畑1号墳

花

春から夏にかけて、花が咲く園路を散策できるように、縄文時代の景観ではありませんが、園路沿いにレンギョウ、トサミズキ、ヤマブキ、シャクナゲ、ムラサキシキブなどの低木のほか、マンサクなどを植栽しています。



シャクナゲ



マンサク

芝生広場(3)

体験学習施設の前面には約10,000㎡の芝生の広場があります。憩いの場の他に、イベントの広場としても活用する予定です。芝生広場の一角には**野焼き場**があり、縄文土器や土偶などを焼くことができます。



体験学習施設予定地から見た芝生広場



野焼き場での土器焼き



駐車場



縄文の森

体験学習施設(4)

宮畑遺跡に暮らし続けた縄文人の生活を伝える展示室のほか、講座等を開催するホール、縄文体験などができる**縄文工房**などの施設があります。エントランスには、焼けた**竪穴住居**を床下展示します。

展示室は、縄文の四季・建築技術・暮らしとまつり・交流をテーマとして、縄文人の生活をわかりやすく伝えます。



エントランス



ホール

縄文時代中期の竪穴住居(土屋根)(5)



復元した土屋根の竪穴住居

発掘調査での成果にもとづき、屋根には土をのせてあります。床には**複式炉**を復元しています。この竪穴住居はわざと焼かれて**廃棄**されています。

縄文時代後期の敷石住居(6)

市内の荒川の河原で採取した石を利用して、当時の状態に近い大きさ・形状の石を並べて復元展示しています。実際に発見された敷石住居では**花崗岩**が主に用いられていました。



復元した敷石住居

湿地(7)

南西部に存在した湿地を表現していますが、縄文時代後期には、湿地の一部が埋め立てられ、乾燥した空間に変わっていたことが明らかになっています。埋め立てられた土には多くの土器片が含まれていました。縄文時代の景観ではありませんが、湿地の周囲にはショウブ、ハナショウブを植栽しています。

また、発掘調査での花粉分析の結果をもとに、水辺に自生していたオニグルミとともに、アオダモ等の樹木を植栽しています。



湿地と中央部の橋



湿地北側の様子